

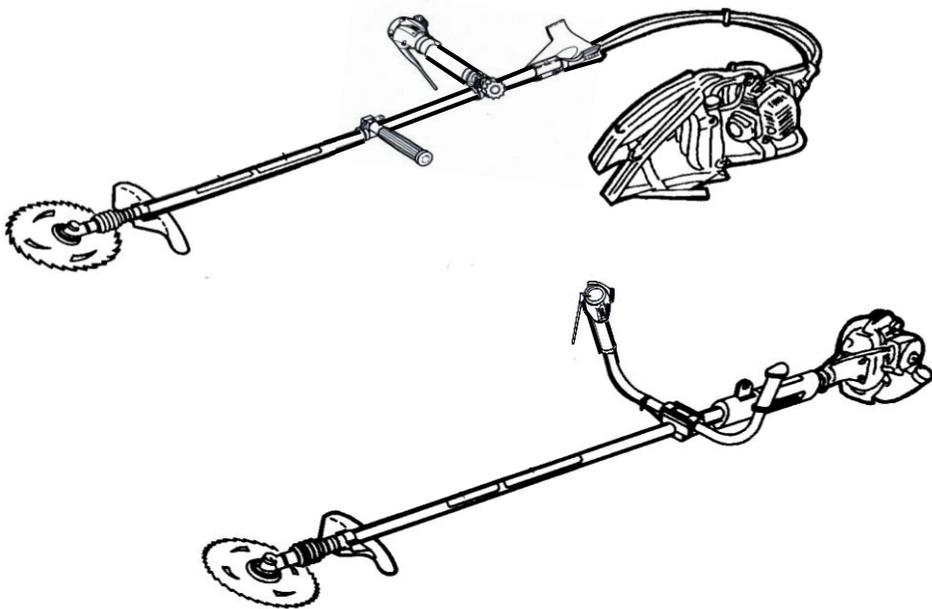
E-1E

軽量刃角度可変型刈払機

背負式 SYM SYRT

ショルダ式 XM XRM

取扱説明書



⚠ 重要

- この刈払機は畦草刈り専用です。
- 山林の下刈り、かん木、竹などの切断に使用されますと、著しい寿命の低下につながります。

⚠ 注意

- 製品をお使いになる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 取扱説明書はいつでも読めるように大切に保管してください。



山田機械工業株式会社

はじめに

このたびはピーパー刈払機をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

この取扱説明書は製品の正しい取扱方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。

初めてお使い頂く方はもちろん、すでにご使用の経験をお持ちの方にも再認識する上でお役に立つものと考えております。この取扱説明書および別冊エンジン取扱説明書も合わせて繰り返しお読み頂き、良くご理解頂いた上で、安全で効率の良い作業を始めてください。

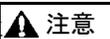
ピーパー刈払機の常におこたらない品質改良のため、取扱説明書の中にお買い上げの製品と詳細において異なる場合があります。あらかじめご了承ください。お買い上げの製品またはこの取扱説明書の内容に関するご質問は、お買い上げ店または営業所までお問い合わせください。

安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な事項です。よく読んで必ず守ってください。

・ 注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

-  **危険** : 注意事項を守らないと、火災の恐れがあるものを示しています。
-  **警告** : 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しています。
-  **注意** : 注意事項を守らないと、けがを負う恐れのあるものを示しています。
- 重要** : 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障の恐れがあるものを示しています。
- 補足** : その他、使用上役立つ補足説明を示します。

・ 操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。これらの表示に従って誤操作のないようにご注意ください。

マーク表示部位	図柄	意味
燃料タンクキャップ		使用燃料の種別が「混合ガソリン」であることを表します。
エアクリーナカバー		このマークの方向にレバーを操作すると、チョークが閉じることを示します。
		このマークの方向にレバーを操作すると、チョークが開くことを示します。

注：機種によって図柄は異なることがあります。

目次

安全に作業するために	1
本製品をお使いになる前に	1
作業時の服装	1
火災防止	1
作業前の点検	2
作業時の注意	2
警告ラベルとその取扱い	3
1. 仕様・性能	4
背負式	4
肩掛式	4
2. 各部の名称	5
3. 組立	6
1) 背負式	6
後部ジャバラの組付	6
フレキシブルシャフトの挿入	6
肘受の組付	6
2) 肩掛式	7
エンジンとメインパイプの組付	7
Uハンドルの組付	7
3) 背負式、肩掛式 [共通]	7
ループハンドルの組付	7
スロットルワイヤの組付	8
ストップスイッチコードの組付	8
飛散防護カバーの組付	8
刈刃の組付	9
移動時カバーの取付	9
背負式 グリップ位置の調整	10
背負式 吊りゴム紐の組付	10
4. 燃料	11
使用燃料	11
混合比	11
給油	11
5. エンジンの始動と停止	12
エンジンの始動	12
エンジンの停止	13
スロットルレバーの扱い方	13
6. 操作方法	15
エンジンの背負い方	15
刃角度の変更方法	16
7. 刈払作業	17
8. 各部の手入れと長期保管	18
刈刃	16
肩掛式フレキシブルシャフト	18
背負式フレキシブルシャフト	18
ギヤケース	19
清掃	19
点検項目	19
長期保管	20

安全に作業するために

刈払機を安全にご使用頂くためには、正しい操作と定期的な保守が必要です。

取扱説明書および別冊エンジン取扱説明書に示されている内容をよくお読みになり、十分に理解されるまで刈払作業ならびに保守作業は行わないでください。

この取扱説明書に示されている操作方法および安全に関する注意事項は、刈払機を指定の使用目的に使用する場合のみに関するものです。

1 本製品をお使いになる前に

- 本製品は刈払専用機です。不測の事故を防ぐため、本来の使用目的以外には使用しないでください。
- 本製品は高速回転する刃物を装備しております。操作を誤ると大変危険です。次のような場合は作業を行わないでください。
 - ① 疲労など体調が悪い場合や、かぜ薬の服用時、飲酒時での作業。
 - ② 風の強い日や降雨、雷など天候の悪い時。
 - ③ 夜間や濃霧など、周辺の状況判断がむずかしい時。
 - ④ 子供や、説明を受けていない人には使用させないでください。
- 作業は30～40分を限度とし、10～20分休憩を取り、決して無理な作業はしないでください。
(参考) 厚生労働省では作業者の健康管理のため次のような基準が設けられています。

作業は連続3日を限度として

1回の連続作業時間	30分以内
1日の作業時間	2時間以内
1週の作業日数	5日以内
1月の作業時間	40時間以内

- 補給用燃料容器は丈夫で、密閉できるものを使用してください。
- エンジンの排気ガスによる中毒を防ぐため、換気の悪い場所での使用はしないでください。
- この取扱説明書は必ず保管して、分からないことがあった場合、必要に応じてご参照ください。
- 本製品を譲渡または貸与するときは、使用方法の説明とともに、この取扱説明書を必ず添付してください。

警告

本製品は運転中に電磁波が発生します。この電磁波はペースメーカーなどの電子機器の動作に影響する場合があります。ペースメーカーなど、医療機器を装着している方は、本製品を使用前に医師、又は、医療機器メーカーに相談してください。

2 作業時の服装

刈払作業には次のような用品を着用してください。

- ① すそを絞った長袖の上着と長ズボン。
- ② 滑り止めの付いた長靴または安全靴。
- ③ 帽子またはヘルメット、防護メガネ。
- ④ 丈夫な手袋、耳栓など。

3 火災防止

非常に引火しやすいガソリンを燃料としているため、次の事項をお守り頂かないと、火災の原因となります。

- 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止してください。くわエタバコなど、周りに火の気がないこと、燃料漏れがないことを確認してください。
- 燃料を補給するときは、燃料をこぼさないようにしてください。もしこぼれたときは必ずふきとってください。こぼれたまま作業を行うと、マフラの熱や、電気系統のスパークによる火災を起こし、やけどを負う危険性があります。
- 給油後、燃料容器は密閉し火の気がなく、日の当たらない涼しいところに置いてください。
- エンジンを運転したまま、または停止直後は、マフラが熱くなっております。枯れ草などの上に置かないでください。



安全に作業するために

4 作業前の点検

- 作業前には必ず各項目に従って点検を行ってください。
- 点検は必ずエンジンを停止してから行ってください。
- エンジンが停止中でも安全のため、ストップスイッチは必ず OFF（停止）にしてください。（押しボタン式は除く）
- 停止直後は、マフラや点火プラグに触れないでください。やけどの危険性があります。
- 製品の改造、分解はしないでください。故障や正常な操作ができなくなる危険性があります。
- 各ボルト、ナット、シャフトにゆるみやガタがないこと、特に刈刃の組み込みが完全なこと、ギヤケースの支持部にガタのないことを確認してください。
- 刈刃に「チップ飛び」「亀裂」「欠け」「曲がり」などが無いことを確認し、異常のある場合は新品の刈刃と交換してください。
- 交換部品はすべて、ビーバー純正部品を必ず使用してください。特に刈刃部への代用品の使用はしないでください。
- とくどき刈刃と刃受金具を外し、ベアリング部に入りこんだ草、土、ほこりなどを取り除いてください。

5 作業時の注意

- エンジン始動の際、周囲に人がいないこと、刈刃が地面その他のものに触れていないことを確かめてください。
- 感電ショックを受けないよう運転中は、点火プラグキャップや、高圧コードに触れないように注意してください。
- 作業者の周囲 15m 以内に人を近づけないでください。
- 飛散防護カバーを外した状態で使用しないでください。
- 作業中異常振動や異常音を感じたら、ただちにエンジンを停止し詳細に点検してください。
- 作業中ハンドルやグリップをしっかりと握って操作してください。不意に硬いものが当たった時に手から外れることがあります危険です。

- 転倒や不意の姿勢変化により、刈払機が作動して思わぬ負傷をすることがあります。次のような場合は必ず、エンジンを停止してください。
 - ① 移動や作業が終了して、本機を持ち運ぶする場合。
 - ② 巻付いた草などを取り除く場合。
 - ③ 作業中に後方より声をかけられた場合、振り向く前にエンジンを停止してください。
- 作業者に近づく場合は、木切れなどを作業者のそば近くに投げて合図をしてください。また笛を利用することもお勧めします。
- やけど防止のため、運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラなどが高温のため、触れないよう注意してください。
- 刈刃は必ず機種に応じて指定したビーバー純正の刈刃を使用してください。
- 作業中、草などに隠れた石や木の切株などに十分注意してください。もし刈刃がこれらの硬いものに当たった場合は、すぐにエンジンを停止し刈刃に異常がないか点検し、異常がある場合は交換してください。
- 傾斜地などは滑りやすいので足元に十分注意してください。
- 作業が終わって移動、または収納する場合は刈刃に移動時カバーを必ず取り付けてください。

警 告

- 機械の改造は危険ですので、改造しないでください。
- 改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用方法と異なる場合は、メーカー保証対象外となります。

⚠️ 安全に作業するために

警告ラベルとその取扱い

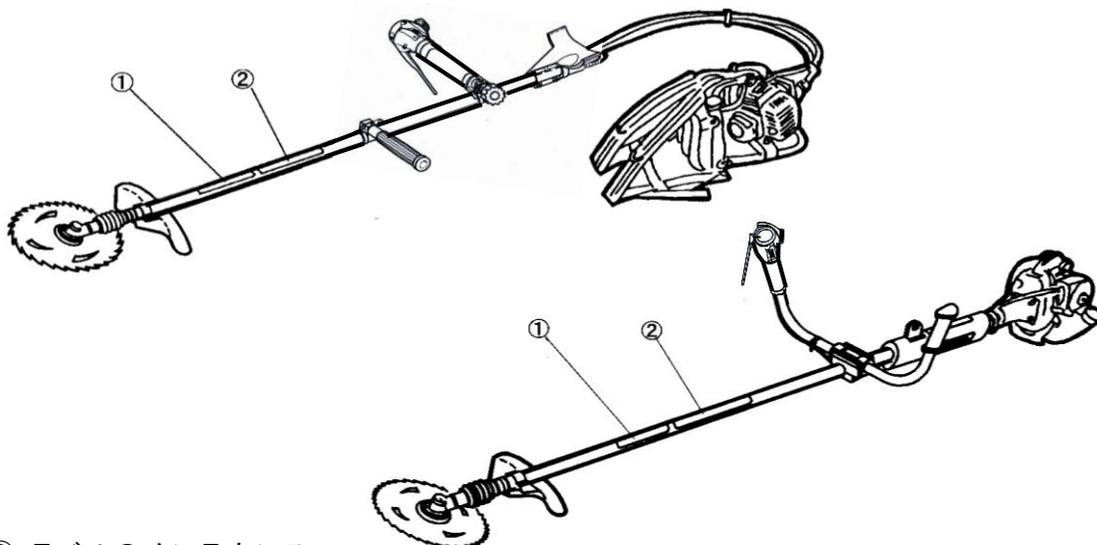
① 警告ラベル



② 型式名ラベル



- 上記ラベルはメインパイプに貼り付けてありますが、エンジン部に貼り付けのラベルについての詳細は別冊エンジン取扱説明書をご覧ください。



③ ラベルのメンテナンス

- 警告ラベルは、いつもきれいにしておいて傷をつけないようにしてください。
- 警告ラベルが汚損したりはがれた場合は、お買い上げの販売店に注文し、新しいラベルと貼り替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は汚れを完全にふき取り、乾いた面にして元の位置に貼ってください。

1. 仕様・性能

背負式

[エンジン部]

名 称	ビーバー背負式刈払機	
型 式	D268B	CD261M
形 式	空冷2サイクルピストンバルブ式ガソリンエンジン	
排気量 cc	25.6	
点火方式	無接点マグネット式	
点火プラグ	BPMR7A	BPMR8Y
キャブレタ	ダイヤフラム、ロータリーバルブ式 (CD261MはHiニードル付)	
燃 料	2サイクル専用オイル混合ガソリン ガソリン：2サイクルオイル = 50：1 (オイル FC級 又は FD級)	
燃料タンク容量ℓ	1.0	
始動方式	引き力低減型リコイルスタータ式	
デコンプ仕様	排気デコンプ	
エアクリーナ	乾式	半湿式
外径寸法 mm	360x300x380	300x280x350
質 量 kg	4.9	
刈 刃	9インチ (外径 230mm) チップソー	

・質量、外形寸法はエンジンを含んだものです。

名 称	ビーバー軽量刃角度可変型 背負式刈払機	
型 式	SYM	SYRT
ハンドル形式	左右 グリップ式	左：ループハンドル 右：グリップ
外形寸法	全長	2250
	全幅	300
	全高	160
質 量 kg	2.6	2.4
刃の回転方向	上から見て反時計方向	
動力伝達方向	フレキシブルシャフトφ6 スパイラルベルギヤ	

・質量は飛散防護カバー、刈刃を含んでおりません。

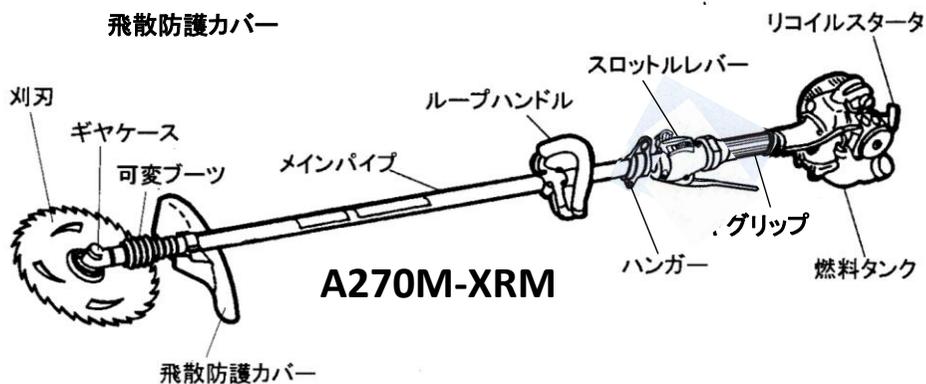
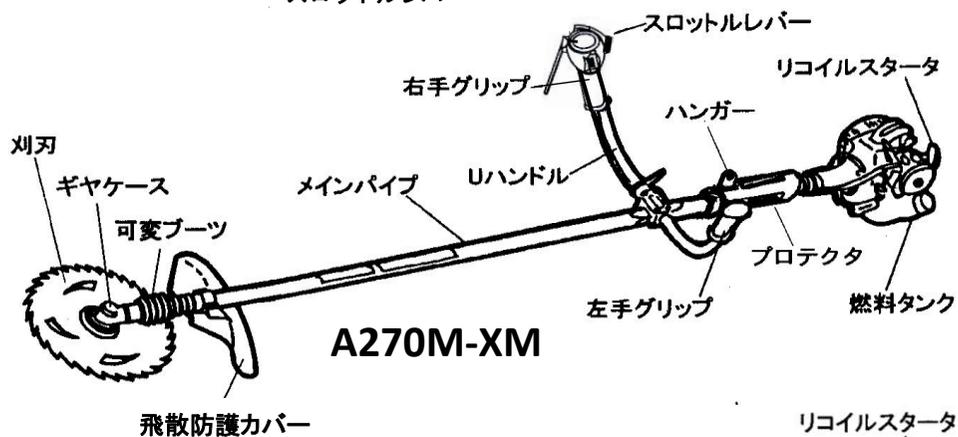
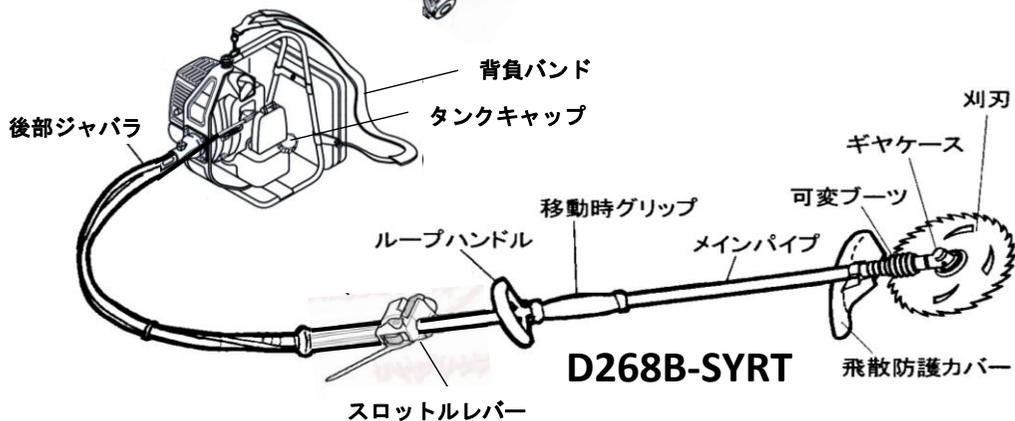
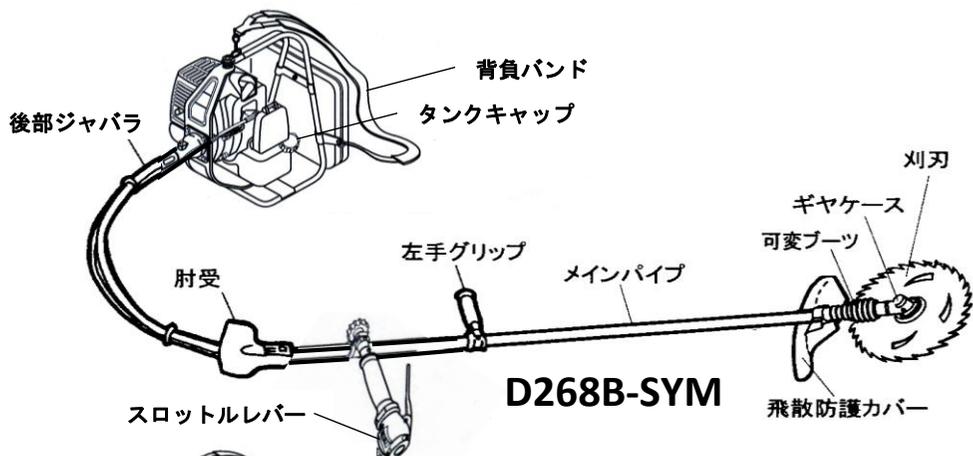
肩掛式

名 称	ビーバー軽量刃角度可変型肩掛式刈払機				
型 式	A240M-XM	A270M-XM	A240M-XRM	A270M-XRM	
ハンドル形式	Uハンドル		ループハンドル		
質 量 kg	4.6		4.9		
外形寸法	全長	1790	1790	1790	
	全幅	610	610	230	
	全高	390	390	230	
刈 刃	9インチ (外径230mm) チップソー				
刃の回転方向	上から見て反時計方向				
動力伝達方向	自動遠心クラッチ、フレキシブルシャフトφ6、スパイラルベルギヤ				
エンジン部	形 式	空冷2サイクルピストンバルブ式ガソリンエンジン			
	排気量 cc	22.5	25.6	22.5	25.6
	点火方式	無接点マグネット式			
	点火プラグ	BPMR8Y			
	キャブレタ	ダイヤフラム、ロータリーバルブ式 (Hiニードル付)			
	燃 料	2サイクル専用オイル混合ガソリン ガソリン：2サイクルオイル (FC級又はFD級) = 50：1			
	燃料タンク容量ℓ	0.45	0.6	0.45	0.6
	始動方式	引き力低減型リコイルスタータ式			
	デコンプ仕様	排気デコンプ			
エアクリーナ	半湿式				

・質量、外形寸法はエンジンを含んだものです。

・質量は飛散防護カバー、肩掛けバンド、刈刃を含んでおりません。

2. 各部の名称

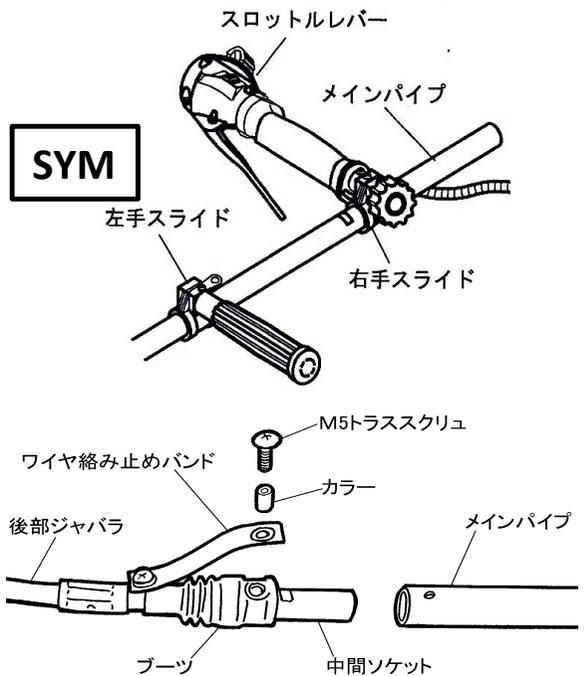
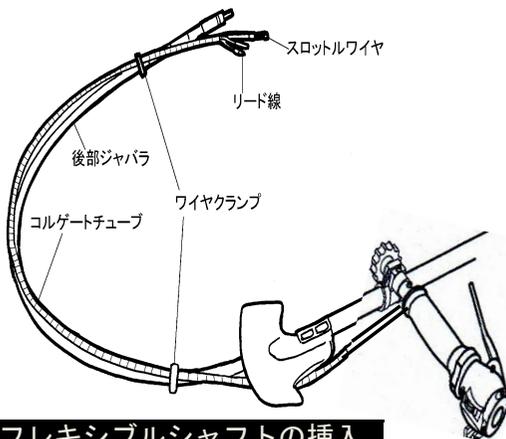


3. 組立

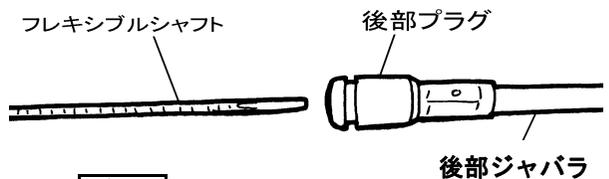
1) 背負式 [SYM, SYRT]

後部ジャバラの組付

- ① SYMのみ
メインパイプに左手スライド、スロットルレバーの付いた右手スライドの順に挿入してください。
- ② メインパイプに後部ジャバラのついた中間ソケットを挿入してください。
- ③ ブーツとメインパイプの穴と中間ソケットのネジを合わせて、カラーとワイヤ絡み止めバンドを順にM5トラスクリュで締め付けてください。
- ④ 後部ジャバラにリード線とスロットルワイヤの組み込まれたコルゲートチューブをワイヤクランプで取り付けてください。



警告 スロットルワイヤが後部ジャバラに絡むのを防ぐために、ワイヤクランプを必ず取り付けてください。



フレキシブルシャフトの挿入

後部ジャバラの後部プラグよりフレキシブルシャフトを挿入し、挿入後フレキシブルシャフト後端を回して刃受金具が回ることを確認してください。

重要

フレキシブルシャフト挿入時、砂・ゴミなどが付着しないように注意してください。砂などが内部に入り込むと、フレキシブルシャフト、ベアリングなどに摩擦によるガタが生じ、寿命が著しく低下します。

補足

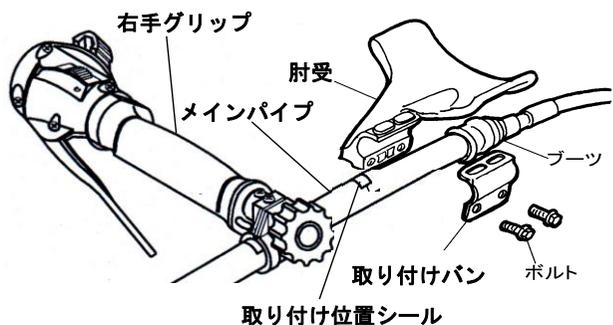
フレキシブルシャフトが途中で入りにくい場合はフレキシブルシャフトを回しながら押し込むとスムーズに入ります。

の取付

肘受の組付

[SYM]

肘受の先端を取付位置シールに合わせ、右手グリップと平行になるようメインパイプの右に取り付けバンドとボルト (M6x25) 2本でしっかり締め付け固定してください。コルゲートチューブをコードバンドで結束してください。締めすぎに注意してください。



2) 肩掛式 [XM, XRM]

エンジンとメインパイプの組付

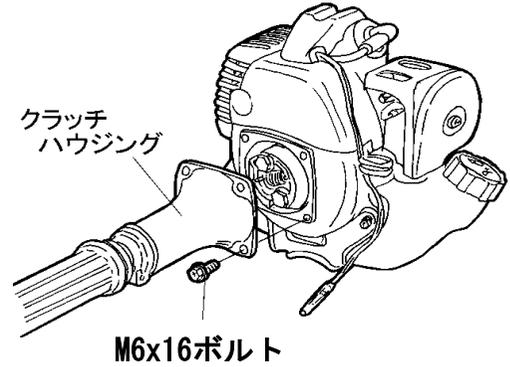
メインパイプのクラッチハウジングを付属のボルト（M6 x 15）でエンジンに組み付けてください。

重要

4本のボルトはゆるまないよう均等で確実に締め付けてください。

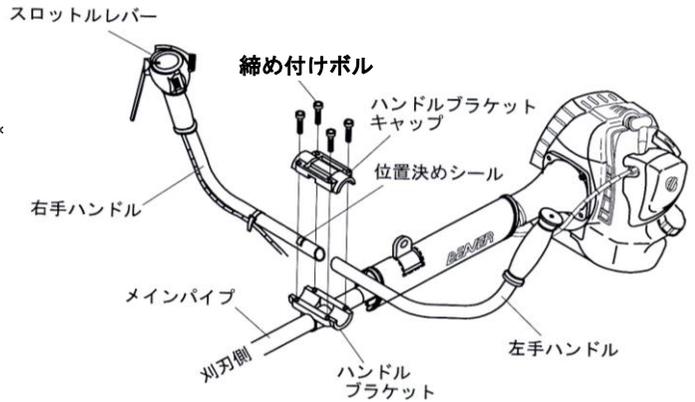
補足

エンジンの燃料タンクが下、メインパイプの先端の刈刃取り付け部も下になるように組み付けてください。



Uハンドルの組付 [XM]

- ① メインパイプに取り付けられているハンドルブラケットの締め付けボルト4本を付属の六角棒レンチでゆるめてください。
- ② 右手ハンドル（スロットルレバー付）を位置決めシール位置までハンドルブラケットに差し込み、右手ハンドル側の締め付けボルト2本を仮締めしてください。
- ③ 左手ハンドルを右手ハンドルに突き当たるまでハンドルブラケットに差し込み、左手ハンドル側の締め付けボルト2本を仮締めしてください。
- ④ ハンドルの傾きを調整し、締め付けボルト4本を付属の六角棒レンチでしっかり締めてください。



- ・ 使用中にハンドルが動かないようにしっかりと締め付けボルトを確実に締め付けてください。
- ・ 使用中に締め付けボルトがゆるんだ時は必ず増し締めしてください。



- 締め付けボルトがゆるんだ状態で使用しますと、ハンドルが抜け出し、重大な人身事故につながる恐れがあります。

3) 背負式、肩掛式 [共通]

ループハンドルの組付 [SYRT, XRM]

ループハンドルを4本のスクリュで取り付けてください。取り付け位置は次の通りです。

[SYRT] 移動時グリップの後に取り付けてください。

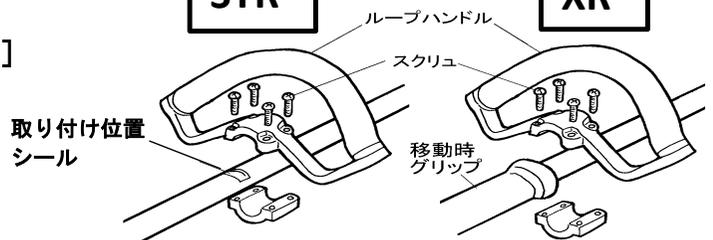
[XRT] メインパイプに貼り付けてある取り付け位置シールの赤い線の後に取り付けてください。

補足

取り付け位置シールは最適と思われる取り付け位置を示していますが、身長や好みによって適切な位置に取り付けてください。

SYR

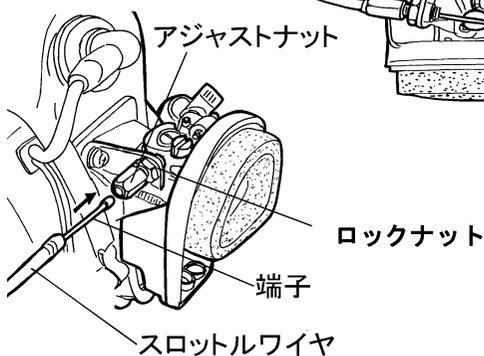
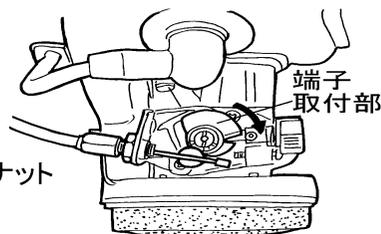
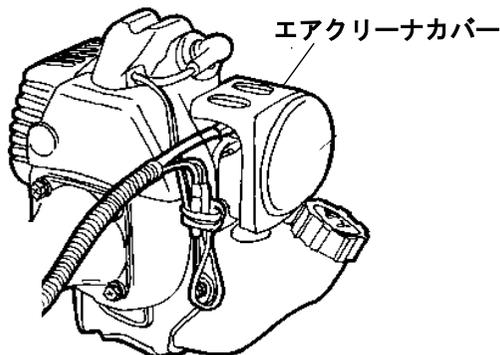
XR



- ・ 使用中にハンドルが動かないようにしっかりと締め付けボルトを確実に締め付けてください。
- ・ 使用中に締め付けボルトがゆるんだ時は必ず増し締めしてください。

スロットルワイヤの組付

- ① エアクリーナカバーを取り外してください。
- ② スロットルワイヤの端子をアジャストナットに通してください。
- ③ キャブレタの端子取り付け部をワイヤ側に回しながらワイヤ取り付け部の凹みにはめ込んでください。
- ④ スロットルワイヤの遊びが 1~2mm になるようにアジャストナットを調整してください。調整後、ロックナットを締め付けてください。



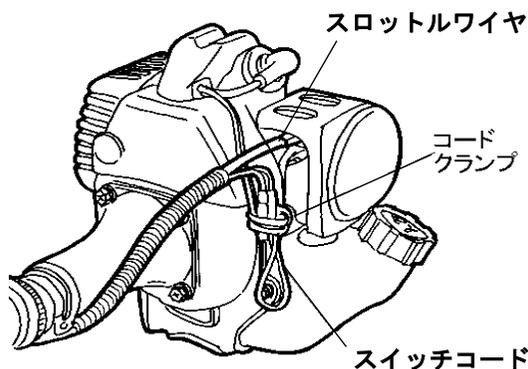
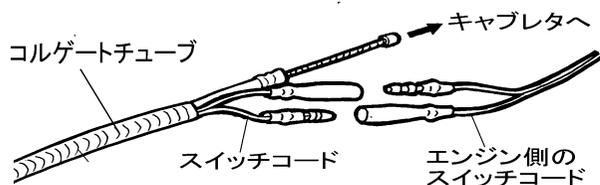
注意
アイドリング状態において、刈刃が回転しないように調整してください。アイドリング状態で刈刃が回転していると人身事故の恐れがあります。

ストップスイッチコードの組付

- ① スロットルワイヤと一緒に組み込んであるスイッチコードの端子をエンジン部の端子に接続してください。
- ② エンジンのコードクランプにスイッチコードを固定してください。（F268Bは無し）

補足

スイッチコードやスロットルワイヤが作業中に木の枝などに引っ掛かる恐れがあります。本機からはみ出さないよう固定してください。



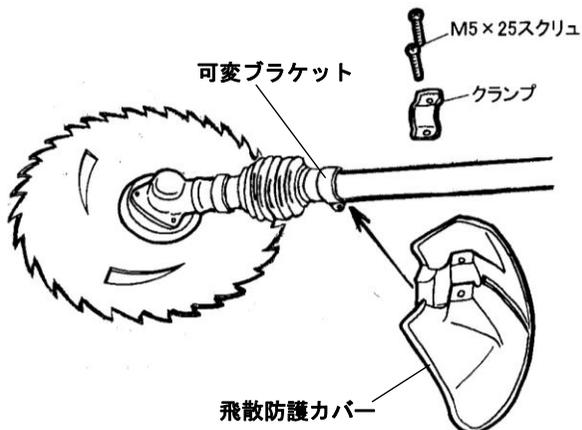
飛散防護カバーの組付

可変ブラケットに飛散防護カバーを当て、クランプとスクリュー（M5 x 25）で均等に締め付けてください。



警告

- ・ 刈刃との隙間を十分とって、刈刃に飛散防護カバーが触れないように組み付けてください。
- ・ 飛散防護カバーは所定の位置へしっかり取り付けてください。取り外したり、ゆるんだままご使用になると、カバーが刈刃に触れて破損したり、はね返った石や木切れなどで重大な人身事故につながる恐れがあります。



刈刃の組付

- ① 刃受金具をカッターシャフトにはめ、六角棒レンチを差し込んで回り止めにしてください。
- ② 刈刃をビーバーマークのある面をギヤケース側にして、刈刃の中央の穴を刃受金具の凸部にはめてください。
- ③ 刃押え金具の凹部を刃受金具の凸部とカッターシャフトにはめ込んでください。
- ④ 左ボルト（座金付）で確実に締め付けてください。

重要

- ・刈刃を交換するときには、その都度刃受金具も外しベアリング部に入りこんだ土や草をきれいに取り除いてください。ベアリング磨耗によるなどガタ、さびなどが発生しシャフトが外れる恐れがあります。
- ・本機に付属の刈刃の大きさを超える刈刃は使用しないで下さい。



警告

- ・ 刈刃の交換は必ずエンジンを停止して行ってください。
- ・ 取り付け後、刈刃および巻付防止カバーが完全に取り付けられていることを確認してください。
- ・ 刈刃取り付け部品は、他機種と混用しないでください。規格やサイズが合わない場合があると、刈刃が外れて重大な人身事故につながる恐れがあります。



重要

負荷の大きいナイロンカッターやイグサ刈刃や 230mm（9インチ）を超える大きさの刈刃を使用すると、可変機構の故障の原因となり、フレキシブルシャフトが切れることがあります。

移動時カバーの取付

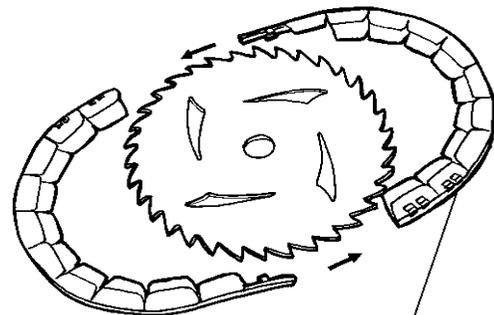
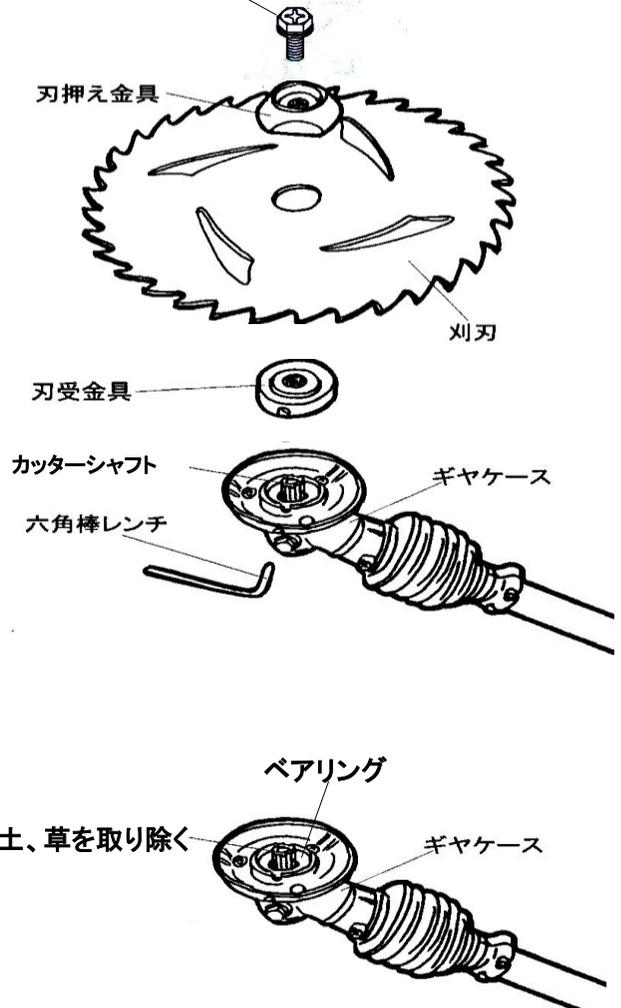
作業が終わって移動したり収納する場合は、刈刃に移動時カバーを取り付けてください。



警告

作業が終わって本機を持ち歩きする場合は、刈刃が人や物に触れる恐れがあります。必ず移動時カバーを取り付けてください。

左ボルト(座金付)

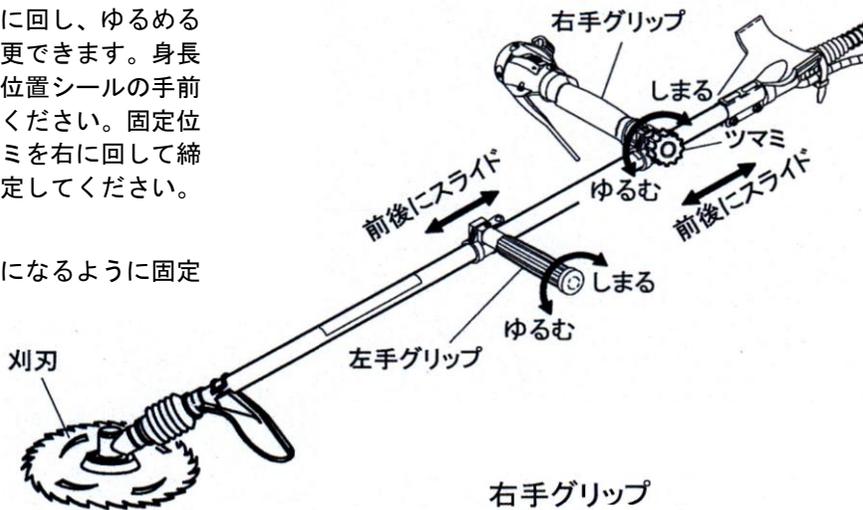


230mmの位置で止めて下さい。

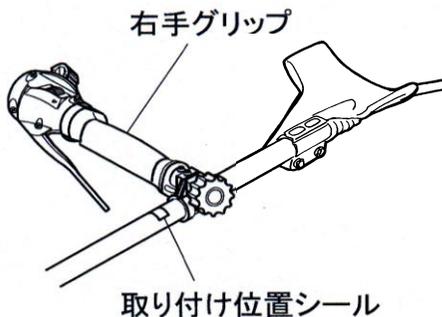
右手グリップのツマミを左に回し、ゆるめることにより、固定位置を変更できます。身長や好みに合わせ、取り付け位置シールの手前になるように位置を決めてください。固定位置が決まりましたら、ツマミを右に回して締め付けて右手グリップを固定してください。

補足

右手グリップは刈刃と平行になるように固定してください。



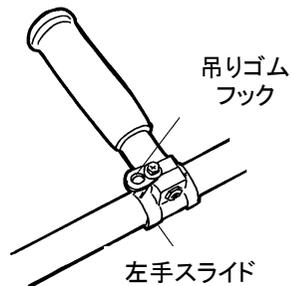
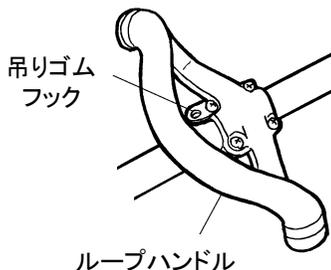
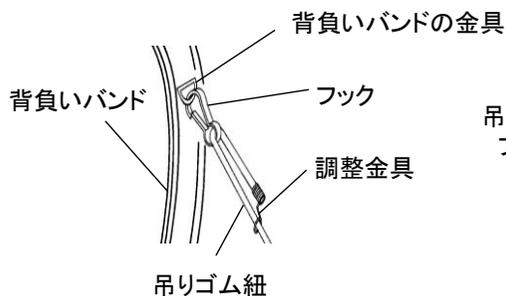
 警告	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 右手グリップの位置変更は必ず、刃の回転を止めてから行ってください。 ▪ 右手グリップは作業中動かないようしっかり締め付けてください。 ▪ 作業中ゆるんだ場合、ものに当たって刈刃やメインパイプが大きくはねられる恐れがあり大変危険です。
---	--



背負式 吊りゴム紐の組付 [SYRT, XRM]

付属の吊りゴム紐を使用すると疲れなくて快適に作業ができます。

- ① 吊りゴム紐の先端はループハンドル、又は、左手スライドに取り付いた吊りゴムフックに引っ掛けてください。
- ② 吊りゴム紐の後端は背負いバンドの金具に吊りゴム紐のフックをはめ込んでください。
- ③ 吊りゴム紐の長さ調整は調整金具を前、又は、後に動かし作業性の良い位置で止めてください。



4. 燃料

使用燃料

燃料は、ガソリンと空冷2サイクルエンジン用オイルの混合燃料をご使用ください。

重要

- ・ オイルは、必ず空冷2サイクルエンジン用オイルを使用してください。4サイクルエンジン用オイルや水冷2サイクルエンジン用オイルは使用しないでください。スパークプラグ汚損やピストンリング固着、マフラづまりなどを起こしやすくなります。
- ・ 燃料は、紫外線や高温に長時間さらされると変質劣化し、始動不良や出力不足の原因になります。混合燃料は、30日以内を目安に使い切るようにしてください。
- ・ 燃料の保管は室内の冷暗所に保管してください。
- ・ 水の混入した燃料を使うと、キャブレタやエンジンの内部が腐食します。本機や燃料容器に水が掛らないようにしてください。

混合比

燃料は、自動車用無鉛ガソリンと空冷2サイクルエンジン用オイルを下記割合で混合容器に入れ、容器を振ってよく混ぜたものを使用してください。

2サイクルエンジン用オイル

JASO FC級 又は FD級 50:1
ガソリン1Lに対してオイル20mL



給油

- ① 給油する機械を屋外の平坦な場所に置き、安定させてください。
- ② 燃料タンクのキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部の気圧差を取り除いてください。
- ③ 燃料タンクのキャップを取り外し、8分目を目安に少しずつ給油してください。
- ④ 給油が終わりましたら燃料タンクのキャップを確実に締め付けて、燃料漏れの無いことを確認してください。

危険

- ・ 燃料タンクへの給油は、屋外の平坦な場所で行ってください。
- ・ 給油時はまわりにタバコなどの火の気のない所で行ってください。
- ・ 作業の途中で給油を行う場合は、必ずエンジンを停止し、冷えてから行ってください。
- ・ 燃料タンクのキャップは確実に締めてください。
- ・ 給油時に燃料がこぼれた時、エンジンを始動すると火災の恐れがあります。必ず始動前には、布でふき取ってください。

燃料キャップ



重要

燃料タンクへの給油は、8分目を目安にしてください。燃料を入れ過ぎると、運転中に燃料キャップから燃料が漏れる恐れがあります。

5. エンジンの始動と停止

エンジンの始動

- ① ストップスイッチが始動側の位置にあることを確認してください。
- ② キャブレタの下にある始動ポンプを数回押し、オーバーフローパイプに燃料が流れるのを確認したら押すのをやめてください。
- ③ チョークレバーを閉にし、刈払機をしっかり保持し、リコイルスタータを軽く引いてください。

重要

- ・ エンジンの始動時は、まわりに人がいないこと、刈刃が地面に触れていないことを確認してから始動してください。
- ・ エンジンの始動時は、スロットルレバーをアイドルの位置に合わせてから始動してください。
- ・ スタータロープは最後まで引ききったり、引っ張った状態から手をはなさないでください。



エンジンが遅れてかかる場合があります。エンジンがかかるまで刈払機を押えておいてください。

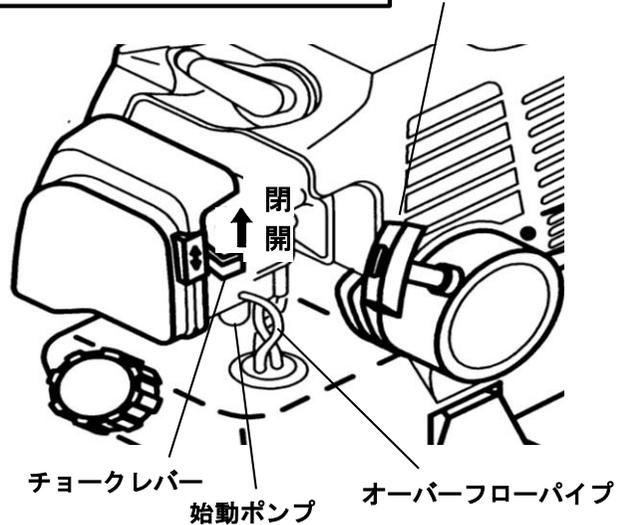
- ④ エンジンが始動したらチョークを徐々に開き、エンジンを2～3分暖機運転をしてください。

補足

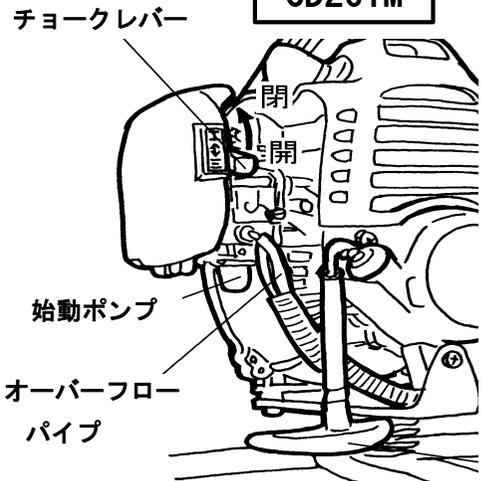
- ・ エンジンが暖まっているとき（停止後、約15分以内）は、始動ポンプの操作は不要です。但し、燃料がなくなり、燃料の補充をした後の再始動には、始動ポンプの操作をしてください。
- ・ エンジンの停止直後の再始動は、ストップスイッチを始動側〔運転〕に移動し、始動ポンプを押さずにチョークレバーを開にし、リコイルスタータを軽く引いてください。

A240M A270M D268B

リコイルスタータ

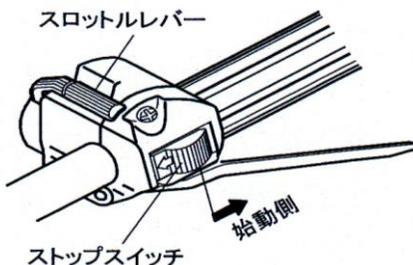


CD261M

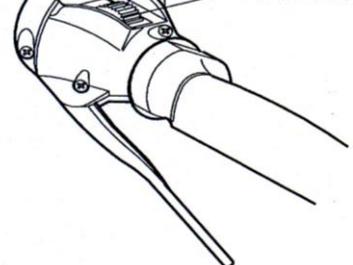


スロットルレバー
始動側
ストップスイッチ

SYRT



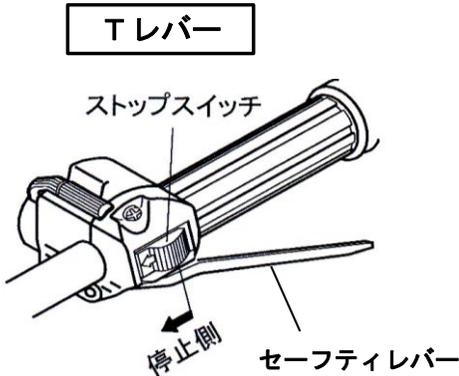
SYM
XM
XRM



エンジンの停止

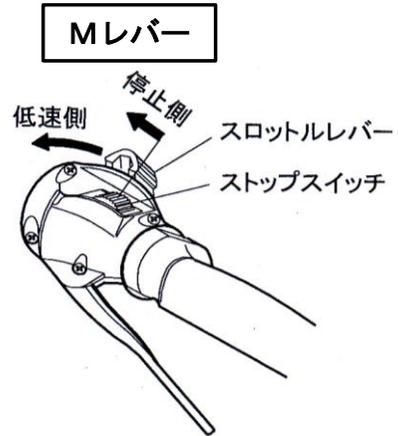
[SYRT]

セーフティレバーを放すと同時にスロットルレバーがアイドリング状態に戻ります。ストップスイッチを停止側〔停止〕に移動するとエンジンが停止します。



[SYM、XM、XRM]

スロットルレバーを低速側に移動させ、アイドリング状態にします。ストップスイッチを停止側〔停止〕に移動するとエンジンが停止します。



重要

緊急時を除く高速回転からのエンジン停止は、エンジンに無理がかかり故障の原因になります。必ずアイドリング状態にしてからエンジンを停止してください。

スロットルレバーの扱い方

[SYRT] Tレバー

- ① エンジンの始動前には、ストップスイッチを始動側〔運転〕に移動し、エンジンを固定してエンジンを始動してください。
- ② セーフティレバーをグリップに当たるまで握り、スロットルレバーを除々に高速側に移動させ、刈刃の回転を草刈作業に適した速度に調整してください。

補足

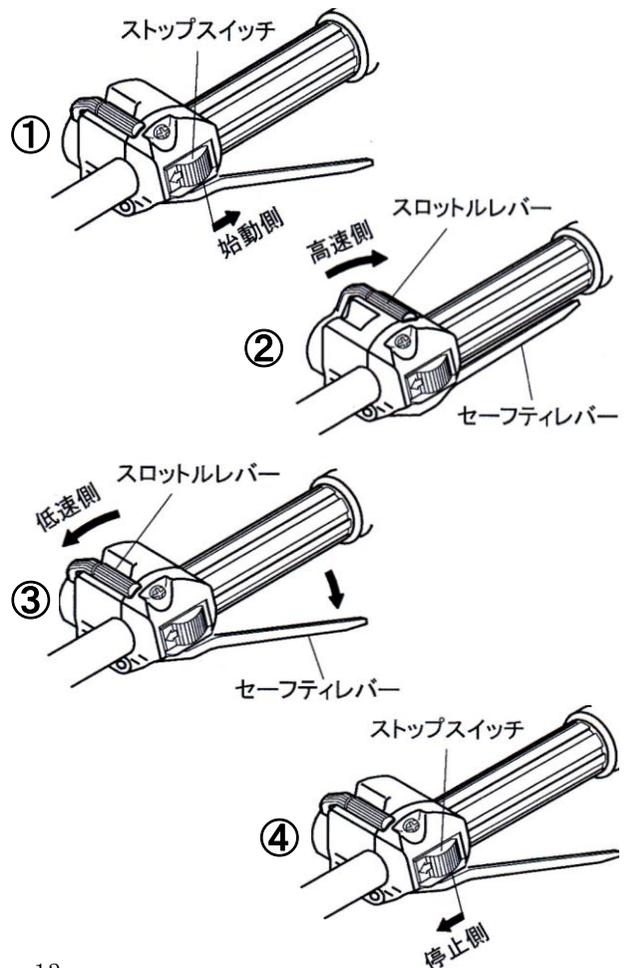
草刈作業中は、セーフティレバーを握ったまま作業を行ってください。

- ③ 草刈作業終了後は、セーフティレバーを放し、アイドリング状態に戻します。エンジンの回転が止まると同時に刈刃の回転が止まり始めます。

補足

セーフティレバーを放すと同時に、スロットルレバーが低速側に戻りアイドリング状態になります。草刈作業再開の時は②の手順で作業を再開してください。

- ④ エンジンの停止はセーフティレバーを放し、アイドリング状態でストップスイッチを停止側〔停止〕に移動するとエンジンが停止します。



[SYM, XM, XRM] Mレバー

- ① エンジンの始動前には、ストップスイッチを始動側 [運転] に移動し、エンジンを固定してエンジンを始動してください。
- ② セーフティレバーをグリップに当たるまで握り、スロットルレバーを除々に高速側に移動させ、刈刃の回転を草刈作業に適した速度に調整してください。

補足

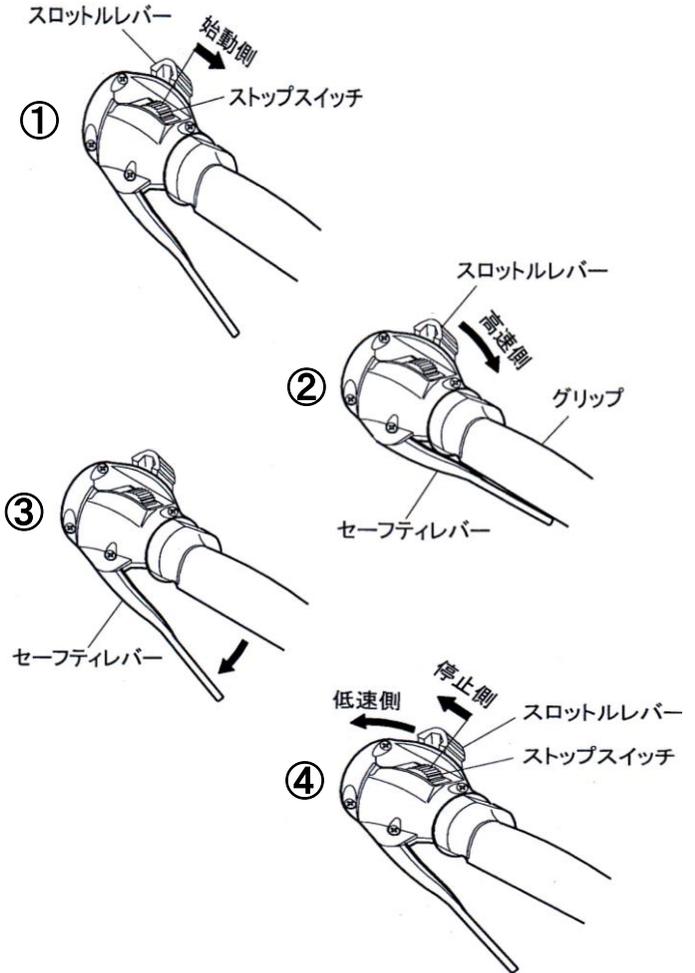
草刈作業中は、セーフティレバーを握ったまま作業を行ってください。

- ③ 草刈作業終了後は、セーフティレバーを放し、アイドル状態に戻します。エンジンの回転が止まると同時に刈刃の回転が止まり始めます。

補足

作業中セーフティレバーを放しても、再びセーフティレバーを握ると元の回転速度にもどります。

- ④ エンジンの停止はスロットルレバーを低速側に移動させてください。アイドル状態ですトップスイッチを停止側 [停止] に移動するとエンジンが停止します。

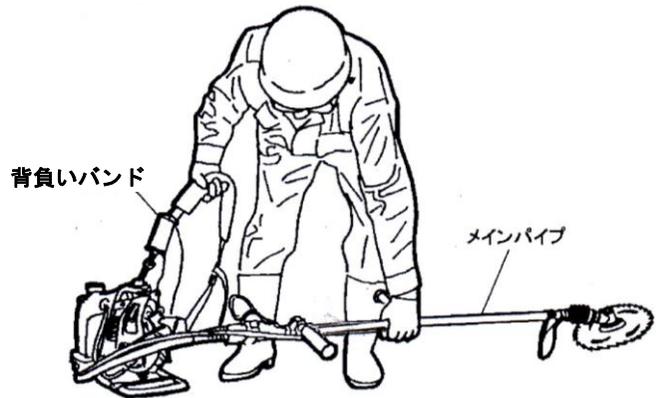


重 要	<ul style="list-style-type: none"> ▪ エンジン回転数が低いまま作業を行うと、クラッチの異常加熱によりクラッチの早期摩耗の原因となります。 ▪ 草の状態によってスロットルレバーでエンジン回転を調整してください。柔らかい春草などは、スロットルレバーを半開程度、秋草や密生している草は 2/3 開程度にスロットルレバーを高速側に移動してください。 ▪ スロットルレバーを低速側いっぱいにもどすとエンジンの回転はアイドル状態になりますが、刈刃はしばらく惰性で回転した後、停止します。
--------	--

6. 操作方法

エンジンの背負い方

- ① 左手でメインパイプ中間部を持ち、右手で本機の背負いバンド右側を持ち右肩に掛けます。
- ② メインパイプを右手に持ち替え、背負いバンド左側を左肩に掛けます。
- ③ 背当マットが腰の上になるよう背負いバンドの長さを調節してください。
- ④ 背中でエンジンが安定するように、胸バンドを適度に締め付けてください。
- ⑤ 左の手のひらを下に、右の手のひらは上に向けてグリップを握り、右肘は肘受にのせます。

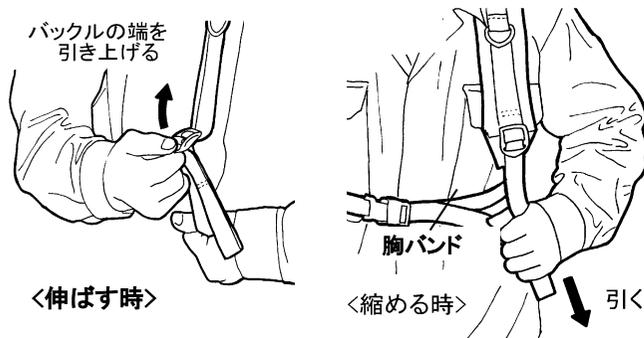


警告

- 背負う時は、まわりに人のいない事を確認し、必ず刈刃が停止していることを確認してから背負ってください。まわりに人がいると人身事故を起こす恐れがあります。
- 刈刃が回転したまま背負うと、回りのものや、身体に刈刃が触れ、重大な事故につながる恐れがあります。

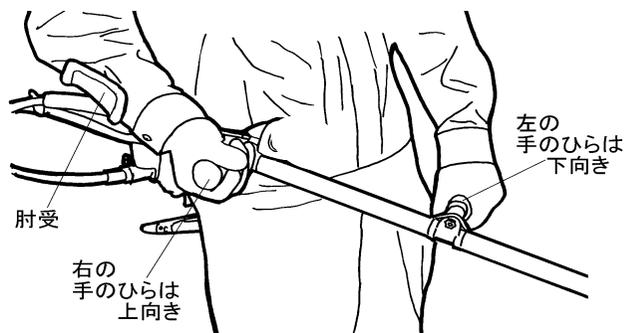


背負いバンドの調整



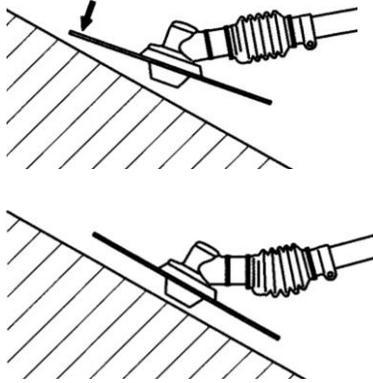
警告

背負う時は、後部ジャバラにリード線とスロットルワイヤの組み込まれたコルゲートチューブが巻きついていないか確認してください。巻きついていると始動時に刈刃が急に回り重大事故につながる恐れがあります。

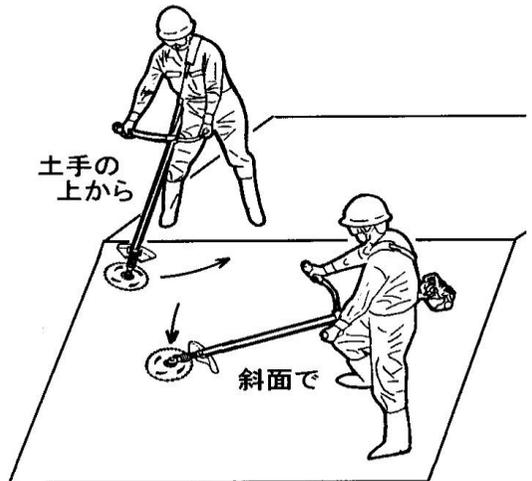
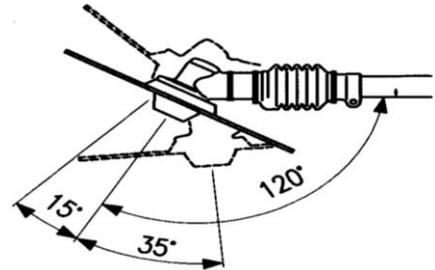
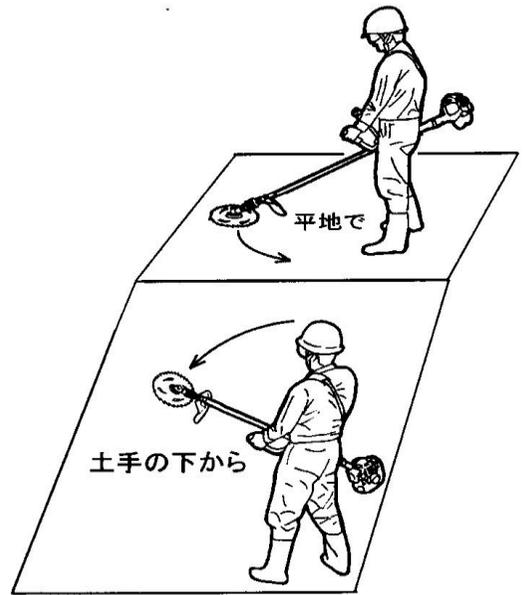
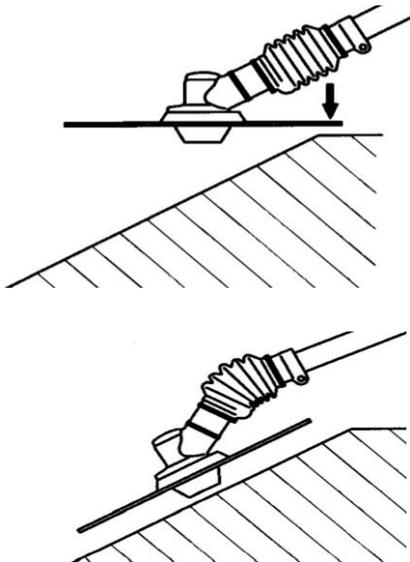


刃角度の変更方法

- ① 刈刃の先端を法面で軽くたたくと刈刃の回転軸の角度はメインパイプに対して最大約 135° となります。平坦地での作業や、土手の下から斜面を刈るような作業などに適しています。身長と地形に合わせて角度を決めてください。



- ② 刈刃の後端を法面で軽くたたくと刈刃の回転軸の角度はメインパイプに対して最大約 85° になります。土手の上から下に向かっての作業や、土手の斜面に立って斜面を刈るときなどに斜面に合わせて刃角度を調整してください。



注意

刃角度可変部のゴムのブーツが破れると可変機構に重大な不具合が発生する恐れがあります。販売店で速やかに新品と交換してください。



警告

- 刃角度変更は必ず、刃の回転が止まってから行ってください。
- 刃角度可変部は分解しないでください。正規に組み立てがなされないとは非常に危険です。
- もし作動不良が発生した場合は販売店にご相談ください。

7. 刈払作業



警告

作業を始める前に必ず、1 ページ、2 ページの「安全に作業するために」の事項を守ってください。

- ① 背負いバンドを肩に掛け、刈刃が地面とほぼ平行になるように刃角度を決め、右手グリップの位置を固定してください。
- ② エンジン回転を草の状態によって調整してください。柔らかい春草などはスロットルを半開程度、秋草や密生している草は2/3開程度に回転を上げてください。
- ③ 足は左右に60~70cm開き、右足を前にし、右足から進むようにします。刈刃は左に30°傾けた状態で右から左に向かって振ります。刈刃いっぱい刈ろうとせずに、刈刃の左前半分で刈るようにしてください。
- ④ 先に右足を約15cm、次に左足を約15cm前進させます。



警告

警告

- この刈払機は畦草刈り専用機です。
- 山林の下刈り、かん木、竹などの切断に使用されますと、著しい寿命の低下につながります。
- 負荷の大きいナイロンカッターやイグサ刈刃を使用すると、フレキシブルシャフトが切れることがあるため使用しないでください。



警告

必ず、右足を先に出して進んでください。左足を先に前に出すと刈刃で切る恐れがあります。

補足

- 刈刃の回転が低すぎると草の巻付きが多くなるばかりでなく、クラッチの早期摩耗の原因ともなります。
- 刈刃いっぱいの幅で刈ろうとすると、刈り残しができたり、刈った草がきれいにそろわず飛散したりします。



警告

- 刈払作業はどのような場合でも、刈払い対象物を刈刃の左側で切るように、必ず右から左に向かって切ってください。刈刃の回転が左回転のため刈刃の右側に硬いものが当たると、刈刃が勢いよく作業者にはねかえってくることもあり非常に危険です。
- 刈払作業の際、草に隠れた石や木の切り株には十分注意してください。刈刃が欠けたり石が手前に飛んでくることがあり危険です。

補足 [SYRT]

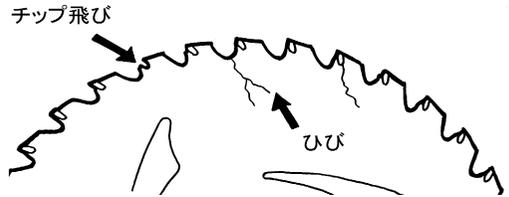
移動時や、斜面での作業時に移動時グリップを使用すると楽に作業ができます。



8. 各部の手入れと長期保管

刈刃

- ① 刈刃部のシャフト、ボルト、支持部にガタやボルトのゆるみがないか確認し、異常がある場合は増し締めまたは新しい部品と交換してください。
- ② 刈刃や飛散防護カバーに草やビニールが巻き付いていないか確認してください。又、巻き付き防止カバーや、刃受金具の中に巻き付いた草やビニールが入っていないかも確認してください。
- ③ 刈刃に「チップ飛び」「亀裂」「欠け」「曲がり」などがいないか特に注意して点検してください。異常のある場合は新品と交換してください。



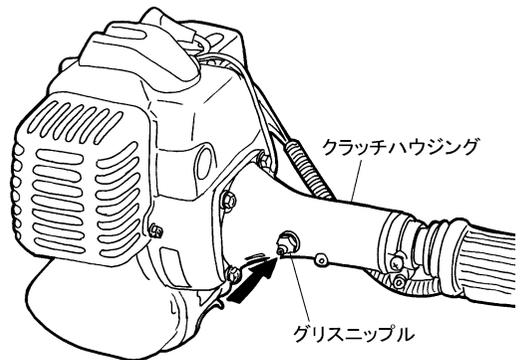
重要

- 刈刃の切れ味が悪いとエンジンやシャフトに無理がかかるばかりでなく、作業能率も低下し疲労度や危険性も増します。
- 巻き付き防止カバーや刃受金具の中に巻き付いた草やビニールが入ったまま使用すると、回転が上がらなったり、ベアリングの異常摩擦などの故障につながり危険です。

肩掛式フレキシブルシャフト [XM, XRM]

使用25時間ごとに、もしくは振動を感じた時はフレキシブルシャフトヘグリスを10g充填してください。

- ① エンジンを始動させ、アイドルリングから少し回転を上げ、ゆっくり刈刃を回してください。
- ② クラッチハウジング部のグリスニップルよりグリスを補充してください。

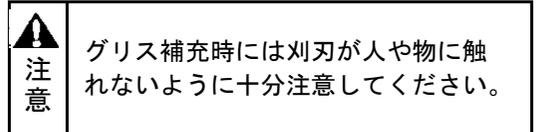


補足

グリスポンプを持ち合わせのない場合は、グリスニップルを外しピーバー純正グリスのチューブをねじ込んで補充してください。

重要

- グリスだまりの容量は50ccです。無理に入れないでください。強引に入れるとグリスがクラッチのほうへ流れ故障の原因となります。

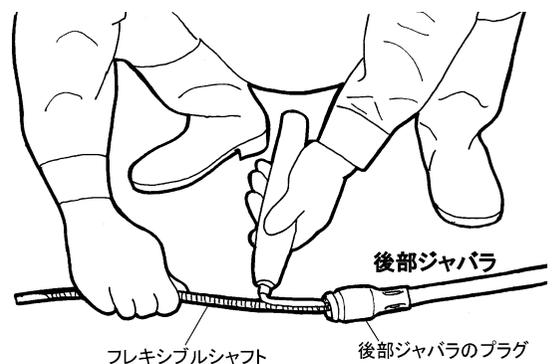


背負式フレキシブルシャフト [SYM, SYRT]

使用20時間ごとにフレキシブルシャフトを1m位後部ジャバラの後部プラグより引き抜き、グリスを塗布してください。

重要

グリスが不足すると、振動が大きくなったり、メインパイプ内のインナーパイプが過熱して被覆が破損したり、フレキシブルシャフトが切れることがあります。特にボールジョイント付近内部はグリスが希薄になります。エンジン部から後部ジャバラを外した時はグリス分があるか確認してください。



ギヤケース

使用25時間ごとにギヤケースのグリスプラグ (M6 x 10) を外してグリスを補充してください。

清掃

エンジンのエアクリーナや冷却風の通り道に付着したホコリやゴミをていねいに取り除いてください。

重要

ホコリやゴミの付着はオーバーヒートの原因となります。



点検項目

点検部位	点検内容	処置
刈刃	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 取り付けボルト、ナットのゆるみ ▪ 割れ、曲がり ▪ 刃先摩耗 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め ▪ 交換 ▪ 交換
カッタシャフト	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ガタ 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ベアリング交換
ギヤケース	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 締め付けボルトのゆるみ 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め
刃受金具	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 内部に草などの混入 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 清掃
前ジャバラ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 被覆破損 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 交換
飛散防護カバー	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 締め付けボルトのゆるみ ▪ 破損 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め ▪ 交換
グリップ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ナットのゆるみ ▪ 破損、曲がり 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め ▪ 交換
ストップスイッチ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ コードの抜け ▪ コードの断線 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 接続 ▪ 交換
後部ジャバラ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 被覆破損 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 交換
エアクリーナ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 目づまり 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 清掃
冷却風の通路	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 草、ほこりの付着 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 清掃
燃料タンク	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 傷による漏れ ▪ 取り付けネジのゆるみ ▪ キャップからの漏れ ▪ 燃料パイプに傷 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 交換 ▪ 増し締め ▪ パッキン交換 ▪ 交換
スロットルワイヤ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 動き不良 ▪ 遊び不良 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 交換 ▪ 調整

 警告	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 点検整備は必ずエンジンを停止し、刈刃の回転が停止してから行ってください。 ▪ 本機及びエンジンの改造や分解はしないでください。事故や重大な人身事故を招く恐れがあります。製品の改造が原因で故障した場合は、メーカー保証対象外となります。 ▪ 部品交換は純正部品または指定品を使用してください。 ▪ 点検整備は作業前および作業が終了した都度行ってください。
--	--

長期保管



危険

引火による火災の恐れがあります。

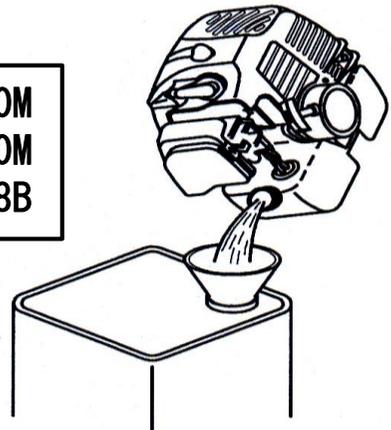
- ・ 燃料の抜き取り時は、火気を遠ざけてください。
- ・ 燃料をこぼさないよう注意し、こぼれた燃料は完全にふき取ってください。

重要

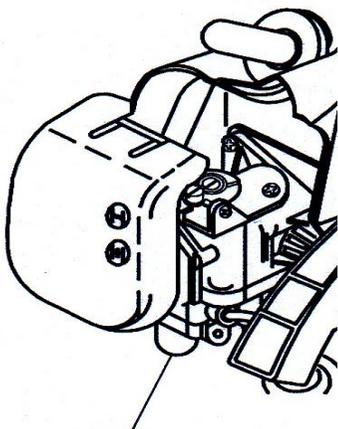
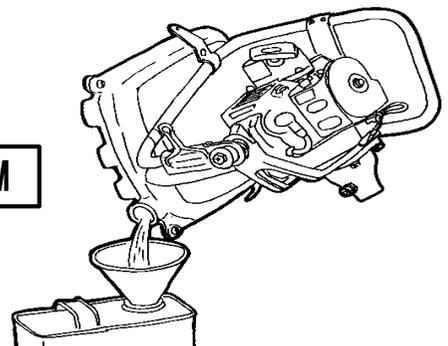
- ・ 長期間（1か月以上）使用しない場合は、燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が変質してキャブレタ内部がつまり、エンジン故障（始動不良や出力不足）の原因となります。
- ・ 保管時は、燃料タンクのキャップをゆるめにしてください。強く締め過ぎると経時変化によりパッキンが変形することがあります。

- ① 機体の清掃を行い、各部を点検してください。損傷箇所がある場合は必ず修理してから保管してください。
- ② 燃料タンクから燃料を容器に排出した後、燃料フィルターを引き出してください。
- ③ 燃料フィルタの目づまり、ゴミの付着等があれば、取り除き清掃してください。
- ④ キャブレタの始動ポンプを燃料が出なくなるまで押し、燃料タンクに戻った燃料を容器に移してください。
- ⑤ 燃料フィルタをタンクに戻し、燃料キャップをはめてください。
- ⑥ エンジンを始動し、自然に止まるまで運転してください。
- ⑦ 点火プラグを外し、2サイクルエンジンオイルを数滴シリンダ内に注入し、リコイルスタータを数回引き、シリンダ内にオイルを塗り広げ、圧縮のあるところで止めてください。
- ⑧ 移動時カバーを刈刃に取り付け、チリやホコリが付着しないように保管してください。

A240M
A270M
D268B



CD261M



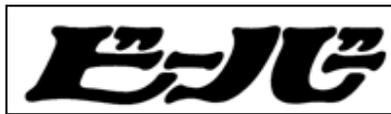
始動ポンプ



燃料タンク

針金

燃料フィルタ



本 社 〒651-2404 神戸市西区岩岡町古郷1534 TEL 078(967)1481 FAX 078(967)3090

2018.7 印刷